

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

「闇を照らす光」

日本基督教団中部教区巡回教師 西村 清

間もなくクリスマスがやってきます。クリスマスという言葉には特別な響きがあるようです。この日だけは、この時だけは、誰もが平和を思い、心優しく出来るような不思議な力をこの言葉からは感じとれるのです。戦争していてもクリスマス休戦と称して一時戦争をやめるようなこともありました。

ただクリスマスは闇と深く結びついています。主イエスの誕生の時代を振り返りますと、社会は不安定であり、不正が横行し、富んでいる者と貧しい者とが極端であったり、働いても、働いても、生活が楽にならない人が多くいました。人々も不信にかたまり、社会状況に失望し、希望も持てない時代だったと言えます。今の時代も同じような状況かもしれません。

また、クリスマスの主役、マリアとヨセフも闇の中にいました。結婚前に妊娠し、しかも聖霊によって身ごもったという。当時これは姦淫に当たり、死刑になるという。ヨセフも婚約者が自分に覚えのない子を宿すと言う疑惑と不信。何故このようなことが起こるのか。

クリスマスに登場する羊飼いはどうだったでしょうか。社会の底辺にいる貧しい人々で、裁判でも証人に立てない、いわば人間扱いされない存在でした。昼も夜も羊の番をしなければならない生活。精神的、肉体的に常に圧迫されていて、人生の夜を背負っていたと言えます。

さらに占星術の学者が登場してきます。彼らは東の方から来た異邦人。東はアダムとエバが罪を犯して追放されたエデンの東、神に対して罪を犯した者が追放される方向で、人生につまずき、や

むなく逃げねばならない場所でした。彼らはまた、占星術の学者で、運命論者でもあり、悪い運命のもとに生まれたからしかたがない。あきらめよう、そのように考える人々でした。

しかし不思議なことに、クリスマスの光、喜びは闇を背負った、このような貧しい、虐げられている人々にまず、もたらされ、告げ知らされたと聖書に記されています。人の常識を打ち破って注がれるクリスマスの光は私たち人間の内側を照らし、自分の生きる意味と価値とを理解できるようにしてくださり、希望へと導いて下さるのです。

このように、闇を照らすイエス・キリストの福音を証する「キリストへの時間」は60年以上にわたってCBCラジオで放送されてきました。多くの方々の支えがあって続けられてきたことを放送協力委員の一人として感謝申し上げます。



「この人こそ神の子」

日本基督教団 幸町教会牧師 佐藤 秀吉

10月26日放送

すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった。そこで身を起して洗礼を受け、食事をして元気を取り戻した。

サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちと一緒にいて、すぐあちこちの会堂で、「この人こそ神の子である」と、イエスのことを宣べ伝えた。これを聞いた人々は皆、非常に驚いて言った。「あれは、エルサレムでこの名を呼び求める者たちを滅ぼしていた男ではないか。また、ここへやって来たのも、彼らを縛り上げ、祭司長たちのところへ連行するためではなかったか。」しかし、サウロはますます力を得て、イエスがメシアであることを論証し、ダマスコに住んでいるユダヤ人をうろたえさせた。

使徒言行録9章18～22節

新約聖書に出てくる人物で、パウロを好きという方は結構いらっしゃいます。今日の聖書箇所「目からうろこ」という言葉の最初の対象者でもあります。パウロは直前に殉教しているステファノの証人でもあります。最初は、キリスト者を迫害するものとして登場し、目が見えなくなったときにイエス・キリストの言葉を聞いて回心し、イエス・キリストを宣べ伝えるようになった人です。

最初はイエス・キリストを信じる者への迫害者であり、回心の後は熱心に異邦人伝道をした方です。いま日本にいる私たちがイエス・キリストの福音を聞くことができるのも、パウロが異邦人への伝道をしてくれたおかげでもあります。

私にとってもパウロは特別な人物で、まだ洗礼を受ける前、それよりも教会に足を踏み入れるきっかけを作ってくれた人でもあります。迫害者でありながら、イエス・キリストの言葉で信じるよう

になった人、聖書を学び始めた私にとっては、イエス・キリストよりも身近に感じられたのでした。イエス・キリストがどのような方かはまだわからないけれども、このパウロが信じた方を信じてみようと思ったのが私が教会に足を向けるようになったきっかけです。

教会に通い、聖書を読むにしたがって、パウロのように主イエスに敵対していた自分に気づき親しみを感じる人も多いでしょう。神の力、当然イエス・キリストの力でもありますが、驚くほどの力を持っています。迫害する側から伝道者を立てたのです。敵対者をも神の計画に用いてしまう、この主なる神が生きて働かれた証人がこのパウロでもあります。

このパウロが、ローマ各都市にいてイエス・キリストを伝道したことによって異邦人といわれる人たちもまた、イエス・キリストの十字架と復活による永遠の命という福音を受け入れることになりました。そしてその福音は、やがて全世界に広がりました。

パウロが迫害していた時は、大祭司の書状を求めたのですが、イエス・キリストを知ってからは、人からのものは何も求めずただ神からのみ言葉の力によって語りました。イエス・キリストが神の子であるという証をしたのはパウロの功績ですが、パウロの言葉に力をあたえたのは生ける神の子イエス・キリストです。

パウロが諸教会に伝えた言葉はいまだ生きています。そして、パウロの語る言葉が生きて私たちに働くということは、パウロの言葉に力をあたえているイエス・キリストが今もなお働いてくださっているという証でもあります。

現代に生きる私たちも、パウロの時代と同じように「生ける神の子」であるイエス・キリストを語ることが求められています。それぞれのたまものによって語ることを求められています。言葉で語ることができる人は言葉で、行動で語れる方は行動によって。

神が求めるのは「知っていること」ではありません。知ったあとパウロのように行動することが求められています。パウロのように大きな働きはできないと思う方がいると思いますが、タラントンのたとえで主イエスが教えてくれたように、神に叱られるのは能力をあたえられながら何もしなかったもののみです。私たちはそれぞれの能力に

おいて与えられているもので、生ける神の子イエス・キリストを語ればよいのです。欠けたところがあるのを承知のうえで、私たちを用いるのですから、私たちに足りないところは聖霊が補ってくださいます。全てを主にゆだねて、できうることを精いっぱい伝えましょう。

パウロの働きが今も伝えられているように、生ける神の子イエス・キリストは今も働いておられます。その弟子である私たちも、共に働こうではありませんか。あなたの働きは、次のパウロを見つけることかもしれないのですから。



= 仕事場からの感想 =

☆放送事業をおささえ下さる皆様とお交わり出来るのは、この「会報」が唯一です。長年、お世話になっているところが二つあります。郵便局と事務用品店です。郵便局は、振替口座で電波料を送金することですが、もう一つは切手の購入があります。大体100枚単位で買いますが、郵便局の記念切手です。私にはよく分かりませんが、年間沢山の記念切手が発行されるようですが、どうしても売れ残るようで、その残り切手を買います。海外へ郵送していた時には、とても喜ばれたので、自然とその習慣が付いています。余り切手でもいいですよ、が何時もの言葉です。もう一つのお店は事務用品店です。20年ほど前から、便箋は縦書きから横書きに変わり、行間隔も広めに成りました。(理由はお分かりいただけだと思います) 一度に10冊、(封筒は最初の方には7桁の郵便番号入りを使い、二回目からはまとめて印刷した5桁の封筒でお許しを頂いております。) これもまとめ買いですが、二ヶ月に一度は行きます。ボールペンが苦手、細書きもダメで、愛用は二本のパイロット万年筆で30年ほど使っています。中指にはペンだこが出来ています。店頭にはないことが多く、電話で取り寄せてのカートリッジインキ(一箱12本入り)も10箱買います。半年で使い果たします。

☆消費税が5%から8%になりました。何とか節約して対応しなければなりません。

☆今はメールの時代、多くの方が素直に自分を表現して下さいますので、お手紙とは違った親しみがわいてきます。皆様に紹介したいと思い、HP「つのぶえジャーナル」(つのぶえジャーナルで検索可)に掲載しておりますので、ご覧下さい。

「つのぶえジャーナル」

URL : <http://tunobue.blog.shinobi.jp/>



ラジオ・文書伝道も時代と共に変わりましたが、お伝えしているメッセージは60年間変わらずに「キリストへのおまねき」と福音です。今後共よろしくご加祈下さい。

「キリストへの時間」 長村秀勝



「キリストへの時間」放送予定 2015年1月～6月

1月

- 4日 原科 浩 (日本キリスト改革派名古屋教会長老)
 11日 原科 浩 (日本キリスト改革派名古屋教会長老)
 18日 伊藤治郎 (日本キリスト改革派四日市教会長老)
 25日 伊藤治郎 (日本キリスト改革派四日市教会長老)

2月

- 1日 落合建仁 (金城学院大学宗教主事)
 8日 落合建仁 (金城学院大学宗教主事)
 15日 小室尚子 (金城学院宗教総主事)
 22日 小室尚子 (金城学院宗教総主事)

3月

- 1日 田口博之 (日本基督教団名古屋桜山教会牧師)
 8日 田口博之 (日本基督教団名古屋桜山教会牧師)
 15日 池田慎平 (日本基督教団金城教会牧師)
 22日 池田慎平 (日本基督教団金城教会牧師)
 29日 山田詩郎 (日本基督教団名古屋北教会伝道師)

4月

- 5日 草野 誠 (日本キリスト改革派恵那教会牧師)
 12日 草野 誠 (日本キリスト改革派恵那教会牧師)
 19日 小野静雄 (日本キリスト改革派多治見教会牧師)
 26日 小野静雄 (日本キリスト改革派多治見教会牧師)

5月

- 3日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)
 10日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)
 17日 武井恵一 (日本基督教団豊橋東田教会牧師)
 24日 武井恵一 (日本基督教団豊橋東田教会牧師)
 31日 山田麻衣子 (日本基督教団名古屋北教会伝道師)

6月

- 7日 沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)
 14日 沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)
 21日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)
 28日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)

「キリストへの時間」 60周年記念誌を お分かちします!



1952年に放送が開始されてから60年、南長老派ミッションの伝道事業として始まった放送伝道の業が、わたしたちに引き継がれて、途切れることなく毎日曜朝6時半から続けてこられたことはまことに感謝なことです。今では日本キリスト改革派中部中会、日本基督教団中部教区、金城学院、名古屋学院、岐阜済美学院、それらに属する信徒の方々の祈りと献金によって、このユニークな伝道の業が続けられています。

「キリストへの時間」協力委員会は60年の節目に記念誌作成を決断し、編纂委員会を立ち上げました。資金の目処もつかない状態での旗揚げでしたが、神様が応えてくださり、放送のための献金には一切手をつけないで今回出版にいたることが許されました。総ページ数128頁の小冊子ですが、放送伝道がどのように始まり、どんな思いを残してきたかを可能な限り浮かび上がらせました。また過去の放送分から歴史的な放送を4回分と讃美歌を収録した80分のCDを付録とすることも出来ました。全体で600部印刷し、寄贈や配布で残部があまりありませんが希望者には1,500円でお分かちします。下記連絡先までお問い合わせください。

発行所 「キリストへの時間」協力委員会 〒461-0018 名古屋市東区主税町4-86
 連絡先 〒465-0065 名古屋市名東区梅森坂4-101-22-207 TEL・FAX052-893-9585
 E-mail: osamura@kind.ocn.ne.jp
 編集発行人 横山良樹 郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送